

2017年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答概要

2017年3月期 通期業績予想について

Q 1. 足元では中華圏において受注が好調に推移しており、下期にかけて収益性が改善していく見込みとのことですが、受注が好調な要因について詳しく教えてください。

A 1. スマートフォンは本体自体が薄くなっていることや、搭載されるレンズの枚数が増加傾向にあり、より薄いレンズが求められています。当社の射出成形機は、可塑化と射出の工程を分離するV-ライン®方式を採用しており、樹脂の計量、射出の制御が安定していることから、薄物の成形に強みがあり、レンズ向けの受注が好調に推移しています。

また、自動車関連では、コネクタなどに防水処理としてシリコンを樹脂として使われることが多く、液状の状態のものを射出成形をしますが、V-LINE方式はシリコンの逆流が少なく安定した成形が可能です。また、一部スマートフォン向けについても防水仕様が求められており、シリコンの二材成形など当社機械の需要が高まっています。

工作機械についても、自動化や高精度機種需要が増加しており、放電加工機の受注台数も順調に推移しており、下期にかけて収益性は改善していく見通しです。

Q2. 射出成形機で大口受注を頂いているとのことですが、規模感について教えてください。

A 2. 規模感としては、通常月の倍くらいの受注台数が1-2ヵ月継続しています。中華圏については、決算期が1-12ヵ月ということもあり、12月末までに全ての受注が今期の売上高に寄与するかはまだわかりません。

2017年3月期 通期業績予想について

Q3. 中華圏において、夏以降についても受注が落ち込んでいないとのことですが、その要因について教えてください。

A3. 例年、中華圏では、年初は春節の影響もあり受注が落ち込み、春節明けに受注が大幅に増加し、年末にかけて受注が落ち込んでいく傾向にあります。今期は、人件費の高騰などを背景に、自動化ニーズ・高精度機のニーズが高まり、当社機械の需要が増加しているものと考えます。

また、中国のスマートフォンメーカーは生産・販売台数を伸ばしており、中華圏において、スマートフォン関連の設備投資需要が堅調に推移していることも要因として挙げられます。

Q4. 中国において、人手不足・人件費高騰によりソディック製品の需要が増えているとのことですが、今後中国でのビジネスを拡大していく上で、競合先はどこになりますか？

A4. 中国市場は工作機械・産業機械ともに低価格機を強みとした台湾・中国メーカーが強いマーケットでしたが、自動化・高精度な機種の高まりなどもあり、中国市場においても、先進国市場と同様の世界的な競合先がライバルになってくると思います。

また、中国では2025年までに国策として「MADE IN CHINA」を推進しており、工作機械も中国製を推奨していく可能性があります。当社は中国のアモイ・蘇州に工場があり、中国においてモノづくりを進めていることも強みになってくると思います。

■ 金属3Dプリンタについて

Q5. 金属3Dプリンタの複合加工機を出すプレイヤーも増えてきています。今後、ソディックの金属3Dプリンタの優位性を維持するために、技術面・マーケティング面などポイントになる点について教えてください。

A5. 工作機械メーカーが金属3Dプリンタの複合加工機を出していますが、造形方式が異なること、またターゲットとなる市場が違います。

他社の多くは部品加工をターゲットとした金属3Dプリンタを開発しており、当社金属3Dプリンタと造形方式が異なります。当社の金属3Dプリンタは加工面の面質と形状の精度が非常に良い点が特徴であり、高い精度が求められる金型をターゲットにしています。また、放電加工機の主要なお客様である金型メーカーを熟知していることも強みであると考えます。

また、金型を作る過程から成形品を作る過程まで、当社グループ内の技術で一貫したサポートが出来る点が強みです。金属3Dプリンタで特殊な金型を作り、その特殊な金型専用の射出成形機でプラスチック部品を成形することで、プラスチック成形サイクルが大幅に短縮できます。この革新的なモノづくりを「プラスチック成形革命」として提案することで市場の開拓を進めております。

■ 為替の影響度について

Q6. 足元では為替が円安に推移しています。業績に与える影響について教えてください。

A6. 貸借対照表において、前期末に比べ円高に推移したことから、為替換算調整勘定が約42億円減少しましたが、為替相場が円安に推移した場合、数億程度は戻ってくると想定されます。また、営業外費用における為替差損益につきましては、足元の円安相場が続けば、第3四半期、第4四半期において数億円程度の為替差益が発生することも考えられます。売上高につきましても、当社は海外売上高比率が高く、売上高の65%程度は外貨建てになります。USD、EUR、人民元等が該当しますが、円安によって売上高についても伸びてくることが考えられます。